令和３年　２月　６日

# 今日のシライ中

白井の愉快な仲間たち　　VOl.38

## 菜の花

少し気の早い菜の花が「今日のシライ中」で紹介されていましたね。そこで今回は、春を彩る「菜の花」について。さて、私たちは簡単に「菜の花」と言いますが、あれは、何の「菜」の「花」なんでしょうか？

なぜ、こんなことを言うかというと、「菜の花」は、一種類限定の「菜」にしか咲かない「花」ではないからです。（数年前、我が家の庭でも、取り忘れた小松菜？がどんどん成長して、びっくりするほど大きくなり、あの菜の花様の花を咲かせたのを覚えています。）そうです、「菜の花」の属するアブラナ科の植物には、それぞれの「菜の花」が咲きます。花の色も黄色、白色、紫色と様々です。では、このアブラナ科の植物には、どんな特徴があるのでしょう？例えば、「からし菜」。名前からもわかるように、「辛味」があるのが特徴です。ということで、はい、同様に刺激的な「ワサビ」もアブラナ科の植物です。また、白菜、キャベツなどもアブラナ科の植物です。アブラナ科の植物は栄養価も高く、私たちの身の回りにもたくさんあります。例えばブロッコリー。これもアブラナ科の植物です。私たちが普段食べているのは、ブロッコリーの蕾（なんて読みますか？つぼみ。）です。まだ未成熟なので緑色で柔らかいですが、日がたてば黄色い花を咲かせます。（ほら、時々冷蔵庫で見かける黄色っぽくなりかけの・・・。）例えば大根もアブラナ科。でも、花はあまり見かけませんよね？なぜでしょう？それは、花が咲くと、栄養分が花に持っていかれてしまい、大根はスカスカになって食べられなくなってしまうからです。

まだ、一面の菜の花には季節が早すぎますが、白井中の周りにも菜の花の群生するところはあるのでしょうか？少し離れていますが、千城台のモノレールから見える川沿いは、それは見事な菜の花畑でした。（今もそうでしょうか？）そうです。菜の花畑は、川沿いの土手に広がるイメージもありますね。なぜでしょう？そこには、実は「菜の花」の生き残り戦略も関係しています。「菜種油」、聞いたことがありますよね。その名の通り、「アブラナの種を搾ってとった油」のことです。以前は、育てて種を搾って、としていましたが、今は手間がかかるので、育てて種を取ることはしません。そこで、放棄された菜の花の種子が、河川に流れ出して拡散したり、人の手によって植えられたり。また、土手の草刈りも菜の花の生育を助けます。刈られた草が肥料となって、その繁殖を支えます。もちろん、ライバルも、人の手によって刈られていきます。このように「菜の花」は、鮮やかな美しさと、生き抜くたくましさを併せ持った植物なのです。

「　菜の花や　月は東に日は西に　　与謝蕪村　」「菜種梅雨」（春先のぐずついた空模様）「菜種月」（春先の霞のかかったおぼろ月）・・・。食生活でも、文化でも。「菜の花」は、私たちにとって昔も今も身近な存在です。